

◎ サッカー競技規則2019/20改正のポイント

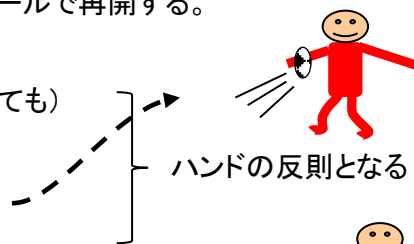
- * キックオフ
コイントスに勝ったチームは、攻めるゴール、またはキックオフのいずれかを選ぶことができる。

- * ドロップボール
ペナルティエリア内でプレーが止められた場合、ボールはゴールキーパーにドロップされる。
その他の場合は、最後にボールに触れた位置で、最後にボールに触れたチームの一人の選手にドロップされる。
(両チームの)他のすべての競技者は、ドロップされる位置から4m以上離れなければならない。
ボールが審判員に当たり、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、それにより新たな攻撃が始まった場合、アウトオブプレーになり、ドロップボールで再開する。

- * ハンドの反則になる場合、ならない場合

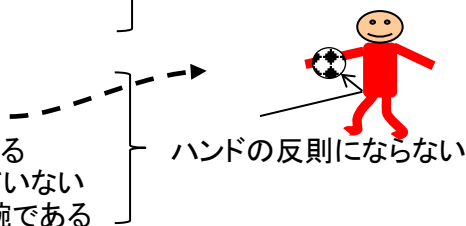
競技者が手や腕でボールに触れて(偶発的であっても)

- ・得点する
- ・得点の機会を作り出す
- ・手や腕を用いて体を不自然に大きくしていた
- ・手や腕が肩の位置以上の高さにあった



競技者が手や腕でボールに触れたが

- ・自分の体に当たってきたボールである
- ・近くの他の競技者の体に当たってきたボールである
- ・手や腕は体の近くにあり、体を不自然に大きくしていない
- ・倒れた時に体を支えるために地面についた手や腕である



- * フリーキック

守備側チームが3人以上で「壁」を作った場合、すべての攻撃側競技者は「壁」から1m以上離れなければならない。

1m以内に侵入したら、相手側の間接フリーキックとなる。

ペナルティエリアからの守備側チームのフリーキックは、ボールがけられて明らかに動いたときインプレーとなる。ボールがペナルティエリアを出る必要はない。

- * ゴールキーパー

ゴールキーパーは、ペナルティキックが行われるとき、少なくとも片足をゴールラインか、ゴールライン上に置いていなければならない。

ゴールキーパーの交代はボールがアウトオブプレーになった時、主審に通知し、主審の許可を得て行う。交代して退くゴールキーパーは、境界線の最も近い地点から出なければならない。代わりに入るゴールキーパーは、ハーフウェーラインのところからフィールドに入る。

ゴールキーパーは、相手ゴールにボールを投げ入れて得点することができない。

- * ゴールキック

ボールはけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。

ボールがペナルティエリアを出る必要はない。

ペナルティエリア内にいる相手競技者が、ボールがインプレーになる前にボールに触れる、または、挑む場合、ゴールキックは再び行われる。